千文字A

斎藤存男

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

千文字 A

【Nコード】

N2541L

【作者名】

斎藤存男

【あらすじ】

よくある高校での、ライトノベルみたいな場ではよくある光景。単なるラブコメ。

眼鏡が壊れた。

体育のバレーボールの授業中、相手のサーブを受けようと眼前に手を構えてレシーブを華麗に決めるはずだった。どうしてそうなったのか自分でもわからないが、気づいたときにはボールが手をすり抜け、顔面を直撃。真ん中からきれいにフレームが折れた眼鏡と痛む僕の鼻っ柱をよそに、ボールはきれいにセッターの所へ行き、アタッカーへ繋がり、バシッ！と我がチームのアタックが決まった。決勝点だ。

「ああっ、めんどくせー！」

ボールが当たって壊れた眼鏡はケースにしまっている。調べてみたらフレームだけでなくレンズもおかしくなったらしく、テープで応急処置をするという選択もできない。おかげで授業の大半はまともに聞いていられない。昼休みになった今、午後の授業をさぼろうかと思いついている。

「フケようかな」

思わず呟いたそのとき、後ろから肩を叩かれた。振り向くと都筑楓 - おせっかいな奴だ - の顔が見える。

「これかけてみなよ」

そう都筑は言ってきた眼鏡を差し出してくる。都筑の眼鏡だ。都筑は以前眼鏡をかけているのを見る限り、予備の眼鏡なんだろう。

「いいよ、何で俺が女物なんか…」

「しょうがないでしょ、代わりがないんだから」

「男としてのプライドが許さない」

「そんなのしょうもないもの、捨てちゃいなさいよ。授業、始まる」

結局つけてしまった。女物を。屈辱だ。周りの視線が突き刺さってくるような気がする。

都筑はいつもこうだ。俺のいやがることをいつもしてくる。とはいつてもいつもは他愛のないお節介だからまだいいけど…いやいや、そんなことで今回のこれが許されるわけじゃない。

じゃあつけなきゃいいだろう、って？俺もそう思う。だけど俺は都筑に逆らえないんだ。だって俺は都筑の「家来」なんだから。

放課後。授業が終わり、帰り支度をしていると都筑から声をかけられる。

「洋一」

「ん、何だよ」

「その眼鏡、新しいのが用意できるまで使っていいから」

「いいよ、いらねえ。もう返したいくらいだし」

「でも返しちゃだめよ。これは今月分の「命令」だから」

「わかってるよ、そんなこと。わかってるから反抗したくなるんだ」

「何がそんなに気に食わないのよ？ 洋一のユニセックスな顔立ちにぴったりだと思っただけどなあ」

「そういう風に言われるのも、お前が俺の「ご主人」だってことも気に食わないんだよ！」

俺たちの主従関係は前途多難だ。

(後書き)

初投稿です。

なんかものを書きたいなとつねづね思いつつ、実際に行動してみたことがなかったのでちょっと挑戦してみました。

突っ込みどころの多い短編小説ですが、今後気が向いたらまた別のものでも書こうと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2541/>

千文字A

2011年1月16日05時04分発行